

渋滞緩和による地域環境の改善

■ 渋滞の科学

交通渋滞を無くする、あるいは緩和するためには、通勤時の自動車利用を少し控えるだけで大きな効果があるかもしれません。

1分当たり100台のクルマが通れる道に、
103台のクルマが通ろうとすると、
3台分の渋滞（約20m）ができます。

それが20分続けば400mの渋滞に
つまり
クルマが3%減れば
渋滞は無くなり得るのです

（出典：交通工学研究会発行「交通渋滞 徹底解剖」）

■ 交通渋滞緩和例（その1）

京都府宇治地域では、エコ通勤プロジェクトに取り組んだ結果、中心部に向かう交通量が25%減少するとともに、通勤時間帯の渋滞長が短くなりました。

好事例 | 工業団地の企業が団結したエコ通勤で渋滞が緩和

京都・宇治市の工業団地近くの国道307号では、通勤時間帯は通勤車両が集中し、慢性的に渋滞していました。

工業団地の企業が連携して**従業員へのバス利用の呼びかけ**や**時差出勤の実施**等に取り組みました。

その結果、クルマ**約100台**の減少により朝の通勤時間帯の渋滞が緩和し、**所要時間も30分**短くなりました。

出典：京都府



■ 工業団地入口交差点の渋滞長



■ 交通渋滞緩和例（その2）

日東電工(株)尾道事業所では、約2000人の従業員のほとんどがマイカーで通勤しており、周辺地域の交通渋滞を引き起こしていました。

そこで、従業員専用の通勤バスを導入するなどのエコ通勤を推進したところ、900人ほどがバス通勤に転換し、渋滞を大幅に緩和することが出来ました。

その後、バスの運行は市営バスに委託され、周辺住民の交通利便性の向上に繋がっています。

平成21年交通関係環境保全優良事業者等国土交通大臣表彰

日東電工(株)尾道事業所(広島県尾道市)



公共交通路線がなく、約2,000人の従業員のほとんどがマイカーによる通勤渋滞などで周辺地域の環境悪化

従業員の通勤に関する事業所の考え方

1. 地域の交通渋滞を緩和し、地域密着型の事業所を目指す。
2. 交通事故のリスクを低減させ、従業員の安全を確保する。
3. 地球環境にやさしい事業所=エコ事業所として、従業員の車通勤を削減する。
4. 事業所内の敷地を有効活用し、敷地面積における生産性を上げる。

バス路線
3方面(JR尾道駅、東尾道駅、松永駅)へ、往路62便、復路63便



工場前に方面別に3つのバス停を設置
(日東電工が整備し、尾道市に寄付)

- 約900人の従業員がバスに転換
(年間約1,200tのCO2排出削減)
- 通勤時の事故が減少
(18年度36件⇒20年度21件)
- 約90人/日の従業員以外の一般客が当該バスを利用(平成21年6月)

平成19年2月 従業員専用の通勤バスを導入。
尾道市営バス(現おのみちバス)に運行委託
工場前に方面別にバス停を設置

平成21年4月 従業員専用バスを路線バス化し、
一般に開放。周辺地域の住民の交通手段を確保。

(出典：国土交通省ホームページ)